

あゆを活用した観光や地域振興の取組を効果的に推進していくために情報発信の方法等について検討

開催概要

- 開催日 令和5年7月26日(水)
- 出席者 黒笹委員、岡村委員、内山理事長(高知県友釣連盟)、八田記者(高知新聞)
野戸企画監(県地産外商公社)、県(観光政策課、水産業振興課)
- 協議結果(取組の方向性)
 - ・各委員がそれぞれの専門の分野において効果的な情報発信を実施

情報発信実績

- ① 図形商標(ロゴマーク)の出願中
 - ・商標取得後、ロゴマークの利用規約等を公開予定
- ② こうち天然あゆフェアの開催(7/1~9/30 開催中)
 - ・TVCMや県HP、SNS等の媒体により開催情報を発信
→県内飲食店49店舗が参加して開催中
- ③ こうち天然あゆまつりの開催(8/27)
 - ・TVCMや県HP、SNS等の媒体により開催情報を発信
→約4,300人が来場し、漁協が天然あゆの塩焼き等1,500尾分(うち、つかみ取り200尾程度)を販売。塩焼き・加工品ともに完売
- ④ 関東・関西メディア向けPR会の開催
 - ・関東ではまるごと高知にて、あゆ魚の解禁に併せてメディア向けにPRし、17媒体で記事を掲載(6/2)
 - ・関西では、有名イタリアン料理店で料理講習会として開催し、メディア、バイヤー、一般客を対象にPRを行い、4媒体で記事を掲載(7/14)
- ⑤ 釣り具メーカー主催のあゆ釣り全国大会の決勝大会の誘致
 - ・本年度は、1社による西日本ブロック大会が仁淀川で開催(7/22)され、R6年度は仁淀川で決勝大会が開催されることが正式決定
- ⑥ HP・新聞等によるあゆ関連情報の発信
 - ・facebook、県HP、SNS等により情報発信

① 図形商標(ロゴマーク)の出願



② こうち天然あゆフェアの開催



③ こうち天然あゆまつりの開催



④ 関東・関西メディア向けPR会の開催



⑤ あゆ釣り全国大会の決勝大会の誘致



⑥ HP等によるあゆ関連情報の発信



県産あゆの消費拡大や付加価値の向上を図るため、安定的な販売と魅力的な商品づくりに向けて複数河川のあゆを集出荷できる体制の構築を検討

開催概要

- 開催日 令和5年7月24日(月)
- 出席者 黒笹委員、西内委員、県(地産地消・外商課、水産業振興課)
- 協議結果(取組の方向性)
 - (1) 日曜市等でのあゆの塩焼き販売の実施
→ 県民や県外観光客に県産あゆの美味しさを知っていただくため、日曜市の開催に合わせた天然あゆのPRイベントを開催
 - (2) 冷凍試験の実施
→ 集出荷を行う漁協を対象に、現状のあゆの取扱い方法を確認し、実施の可能性を検討

取組実績

① 「こうち天然あゆまつり」の開催



- 開催日・場所：令和5年8月27日(日) 9:00~15:00、西敷地(高知市)
- 参加者 漁協出展ブース：あゆの塩焼き提供・天然あゆのつかみ取りを実施(奈半利川淡水漁協・四万十川上流淡水漁協・四万十川西部漁協)
物販ブース：あゆ飯、あゆ寿司等の加工品等販売(うを兼(仁淀川漁協の紹介)・中芸日本遺産協議会)
その他：あゆ釣り具の展示販売等(フィッシングハヤシ・釣り具の岡林・シマノ・ダイワ)
- 当日の状況：来場者数は約4,300人。漁協が約1,500尾(うち、つかみ取り200尾程度)のあゆを販売。あゆの塩焼き・加工品ともに完売
- アンケート結果：本部テントで、あゆ王国高知の取組みに関する認知度調査を実施
→ 県内では6割、県外では1.5割があゆ王国高知に関連して、あゆに関する様々な取組を行っていることを認知



表. あゆ王国こうちに関する認知度アンケート結果

| 項目 | 知っている | | 知らない | | 計 |
|----|-------|-------|------|-------|------|
| 県内 | 91人 | (61%) | 58人 | (39%) | 149人 |
| 県外 | 39人 | (15%) | 219人 | (85%) | 258人 |
| 計 | 130人 | (32%) | 277人 | (68%) | 407人 |

② 第25回インターナショナルシーフードショー(東京)へのあゆ出品

- 開催日：令和5年8月23日(水)~25日(金)
- 出展の内容：高知県ブースにおいて「あゆ王国高知」のPR。事業者が出展スペースで四万十川産の冷凍あゆを出品



③ 県産あゆの輸出に向けた国内商社の産地視察

- 実施日：令和5年7月26日(土)
- 視察場所：西土佐あゆ市場(四万十川西部漁業協同組合)
- 概要：令和5年11月に国内商社がドバイの日本料理店で日本産食材を使ったフェアを開催予定。国内商社が、使用予定の食材の一つである県産あゆの事前確認のため産地訪問



あゆ資源を持続的に活用するため、あゆや河川環境の保全や、内水面漁協の活性化等について検討



開催概要

- 開催日：令和5年8月1日（火）
- 出席者：黒笹委員、坪井委員、松浦組合長（物部川漁協）、県（自然共生課、河川課、内水面漁業センター、水産業振興課）

協議概要

①あゆや河川環境等の保全に関する事項

- ・内水面センターから、本年度から開始する、あゆの「遡上量予測手法の開発について」（水産庁事業を受託）の研究内容について報告
 - ・海域生活期の仔稚魚の量から翌春の遡上量を予測
 - ・流下仔魚の量と海域生活期の仔稚魚の量から、生き残りの良い産卵時期と、生き残りに影響を与える海域環境条件を検討
- 本年度のあゆの産卵時期から調査が開始される予定

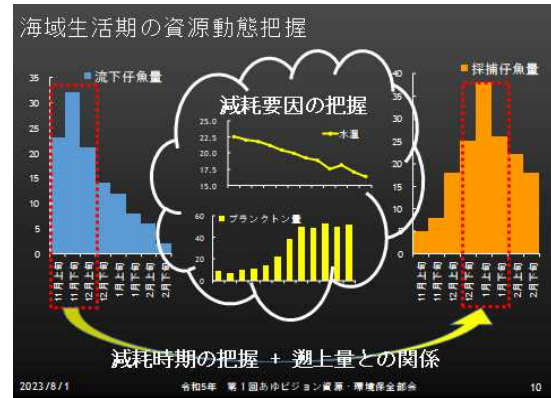
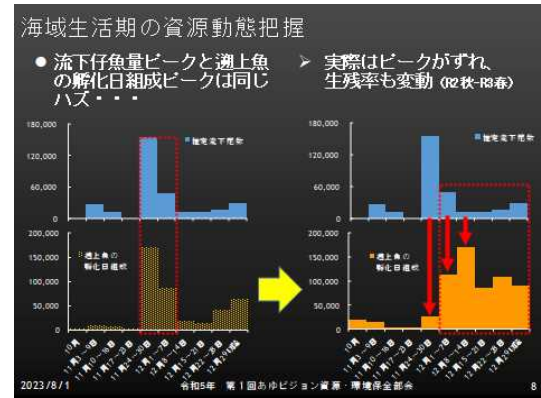


図 あゆ仔稚魚の海域生活期における資源動態把握調査に関する資料 (内水面漁業センター作成資料を一部抜粋)

②内水面漁協の活性化に関する事項

- ・他県の内水面漁協の取組みの紹介
 - ・アユイング(アユのルアー釣りの導入が内水面漁協の組合員や遊漁者数の増加につながった事例の紹介。
 - ・本県河川ではアユイングによるトラブルを懸念する声がある一方、他県ではそのようなトラブルはほとんど無い。
 - ・友釣りをを行う遊漁者は減少せずに、アユイングを行う遊漁者数だけが純増した事例があり、友釣りとも共存可能。
- アユイングに対する県内漁協の意向及び実態を調査し、結果をふまえてアユイングの普及を図る



図 こうち天然あゆまつりでのあゆ釣り具展示の様子 図 アユイングの様子※画像提供：岡林釣具店